要申込
有料

でんおん連続講座

申込方法

はがき・FAX・電子メールのいずれかの方法により、以下の項目についてご記入の上，お申込みください。

＊申込多数の場合は抽選とします。
＊定員に余裕がある場合は締め切り後も申込を受け付けます。

①郵便番号　②住所　③氏名　④電話番号(FAX番号)　⑤希望する講座

申込先・問合せ先

〒610-1197　京都市西京区大枝沓掛町13-6
京都市立芸術大学 事務局連携推進課（事業推進担当）

E-mail　public@kcua.ac.jp
FAX　075-334-2281
TEL　075-334-2204（平日 午前8時30分～午後5時15分）

会　場

京都市立芸術大学
京都市西京区大枝沓掛町13-6

日本伝統音楽研究センター
合同研究室１（新研究棟７階）

● 阪急桂駅東口バス停より
京阪京都交通バス 1・2・13・14・25・28 系統乗車約 20 分，「芸大前」下車，徒歩すぐ

● ＪＲ京都駅【Ｃ２のりば】より
京阪京都交通バス 2･14･28 系統に乗車，「芸大前」（約 45 分）下車，徒歩すぐ

※ 運行時刻，その他交通機関についての詳細情報は，各社のホームページをご確認ください。

主催
京都市立芸術大学　http://www.kcua.ac.jp
日本伝統音楽研究センター　https://rcjtm.kcua.ac.jp/
▶公式 Facebook　https://www.facebook.com/kcua.rcjtm/
▶公式 Twitter　https://twitter.com/kcua_rcjtm

でんおん連続講座

音源・映像・実演を交えて楽譜などの演奏資料を読み進めることで、専門的なテーマに気軽に触れていただける市民講座です。

申込方法は裏面をご覧ください
要申込
有料

定員　各講座の紹介をご参照ください。
申込受付　各講座の開講日の１ヶ月前から開始（３日前まで受付）

A　能の地拍子や謡の旋律型を理解する　羽衣の解剖

5月8日（水）～7月10日（水）【全10回】
講師：藤田　隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

B　京 都 の 琴（７）

5月11日(土)・5月25日（土）・6月8日(土)【全３回】
講師：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

C　常磐津節実践入門（その９）

4月26日（金）～7月26日（金）【全７回】
※期間中の隔週金曜日
講師：常磐津 若音太夫(竹内 有一)（日本伝統音楽研究センター教授）

伝音セミナー　日本の希少音楽資源にふれる

日本伝統音楽の講座に参加するのは初めてという方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

申込不要
参加無料

定員　各回につき先着 50名

第1回	5月9日(木) 14:40～16:10	京都のうた（その５） 講師：大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）
第2回	6月6日(木) 14:40～16:10	日本民謡の現代：伝承？変容？改良？ 講師：齋藤　桂（日本伝統音楽研究センター講師）
第3回	7月4日(木) 14:40～16:10	亀茲（きゅうじ）から京都へ―散楽（そまく）・蘇莫者（しゃ）の旅 講師：渡辺 信一郎（日本伝統音楽研究センター所長）
第4回	8月8日(木) 14:40～16:10	昭和時代の“現代音楽”発掘 講師：田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター准教授） 竹内　直（芸術資源研究センター客員研究員、奈良教育大学非常勤講師 他）
第5回	9月5日(木) 14:40～16:10	大衆演芸にみる芝居と流行り唄 講師：薗田　郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

※ 期間中の詳細な日程･開催時間については裏面をご確認ください。

でんおん連続講座

要申込
有料

A 能の地拍子や謡の旋律型を理解する 羽衣の解剖

5月8日・5月15日・5月22日・5月29日・6月5日・6月12日・6月19日・6月26日・7月3日・7月10日
各回 10時40分～12時10分【いずれも水曜日・全10回】

講　師：**藤田 隆則**（日本伝統音楽研究センター教授）

定　員：30名　　受講料：5,000円

室町時代に成立した能。数時間にもおよぶ力のこもる演技をしっかりと受けとめるためには、謡の内容理解に加え、音楽面の理解も必要です。本講座では、地拍子（能のリズム）や謡の旋律の学習を通じて、能の音楽面のさらなる理解をめざします。能の音楽に関心がある方、ぜひ受講してください。

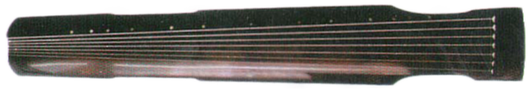
1回目(5/8)	旋律型を理解する(その1)
2回目(5/15)	旋律型を理解する(その2)
3回目(5/22)	旋律型を理解する(その3)
4回目(5/29)	音数律を理解する(その1)
5回目(6/5)	音数律を理解する(その2)
6回目(6/12)	音数律を理解する(その3)
7回目(6/19)	音数律を理解する(その4)
8回目(6/26)	拍子を理解する(その1)
9回目(7/3)	拍子を理解する(その2)
10回目(7/10)	拍子を理解する(その3)

B 京都の琴（その7）

5月11日(土)・5月25日(土)・6月8日(土)
各回 13時00分～16時30分(途中休憩15分あり)【全3回】

講　師：**武内 恵美子**
（日本伝統音楽研究センター准教授）

定　員：15名
受講料：3,000円



平成30年度後期連続講座E「京都の琴(その6)」に引き続き、琴(キン/七弦琴/古琴)の持つ特徴的で魅力的な世界観を紹介します。毎回,講義と体験実習を行います。講義では、(1)琴の様々な文化的側面を学びつつ、(2)各回1曲,琴の代表的な曲を取り上げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞します。また、(3)江戸時代に京都で活躍した琴士を、各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の世界を紐解いていきます。

体験では、受講者の進捗に合わせて指導しますので、初めて触れる方でも大丈夫です。多少経験がある方にも御参加いただけますが、体験ですので、中級以上の方への実技指導は致しかねます。詳細はお問い合わせください。

楽器は用意しますが、人数によっては複数で1張を御使用いただく場合があります。琴をお持ちの方は御持参くださっても構いません。

C 常磐津節実践入門(その9)

4月26日・5月17日・5月31日・6月14日・6月28日・7月12日・7月26日
各回 10時40分～12時10分【いずれも金曜日・全7回】

講　師：**常磐津 若音太夫（竹内 有一）**
（日本伝統音楽研究センター教授）

定　員：10名　　受講料：6,000円

京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の歴史的背景、構成や特徴、表現技法を考察し、浄瑠璃(語り)と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。試演会、鑑賞会等も行います。はじめての方でも大丈夫です。

◀申込方法は裏表紙に掲載しています

伝音セミナー 日本の希少音楽資源にふれる

第1回

5月9日(木)
14時40分～16時10分

京都のうた（その5）

講師：**大西 秀紀**（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

「京都のうた」の5回目は、祇園甲部芸妓による「西京名所」「さくら音頭」や、「同志社大学校歌(大中寅二作曲)」「京都高等工芸学校々歌(現京都工芸繊維大学)」など京都の学校校歌、「亀岡音頭」「板橋婦人会の歌」など京都府市の地域の唄、川下りで賑わう保津峡を行く蒸気機関車D51・C54の響きなどをお聴きいただきます。

※曲目を追加・変更する場合があります。

第2回

6月6日(木)
14時40分～16時10分

日本民謡の現代：伝承？変容？改良？

講師：**齋藤　桂**（日本伝統音楽研究センター講師）

近代以降、民謡を保存・伝承しようという動きと、積極的に新しく改良・応用しようという動きは、常に両方存在し続けてきました。それは現代でも同じです。芸術音楽に民謡を取り込んだ作品は多々ありますし、またポピュラー音楽との融合も様々なジャンルで為されています。それらは、私たちが素朴に考える民謡の姿とは少し異なるかもしれませんが、一方で民謡の柔軟性のあらわれともいえるでしょう。現代の「民謡」から、今の音楽文化を考えます。

第3回

7月4日(木)
14時40分～16時10分

亀茲(きゅうじ)から京都へ――散楽(さんがく)・蘇莫者(そまくしゃ)の旅

講師：**渡辺 信一郎**（日本伝統音楽研究センター所長）

日本の雅楽のなかに、「蘇莫者(そまくしゃ)」と呼ぶ舞楽があります。この舞楽は、西域から中国をへて日本に伝わった散楽のひとつです。西域から唐代中国へ旅をつづけていくと、もともと民衆の舞楽であった「蘇莫者」は、曲名を「感皇恩(かんこうおん)」、「万宇清(ばんうせい)」と変え、皇帝をたたえる音楽になってしまいます。一方日本には、「蘇莫者」の曲名のまま唐から伝来し、千数百年をへて雅楽の左舞となりました。「蘇莫者」の旅をたどりながら、日本雅楽の源流と伝来を紹介します。

亀茲(きゅうじ)…かつて東トルキスタン(現在の中国新疆ウイグル自治区)に存在したオアシス都市国家

第4回

8月8日(木)
14時40分～16時10分

昭和時代の“現代音楽”発掘

講師：**田鍬 智志**（日本伝統音楽研究センター准教授）
講師：**竹内　直**（芸術資源研究センター客員研究員、奈良教育大学非常勤講師 他）

2013・2014年に続くシリーズ第3弾。当センターの資料庫には、60～80年代に録音/発売された“現代音楽”のLPが多数眠っています。それは日本の作曲家/作品の評論家、富樫康(1920～2003)氏旧蔵の資料です。平成の時代も終わり、もはや“現代音楽”ではない昭和の”現代音楽”の数々。今回はご来場の方々にも選曲作業にご参加いただけます。果たして珠玉の一曲を掘りあてることができるでしょうか。

第5回

9月5日(木)
14時40分～16時10分

大衆演芸にみる芝居と流行り唄

講師：**薗田　郁**（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

このセミナーでは明治・大正・昭和にかけて生まれた数々の流行歌のなかで、とくに芝居と結びつきの強かった唄を取り上げます(「名古屋甚句」「淡海節」「伊勢音頭」など)。流行り唄が芝居のなかでどのように用いられたか。芝居と唄との前近代的な関係を踏まえつつ、両者の結びつきから近代日本の大衆演芸史の一端をのぞいてみたいと思います。

申込不要
参加無料